

装具の分類・目的を理解して患者さんのADLをSo Goodにしよう！



整形外科ナースの知識と実践力アップをサポートする

整形外科看護

The Japanese Journal of Orthopaedic Nursing

ここまで
知っておけば安心！！

きほんの特集

特徴・使い方が

動画・写真で
一目瞭然！

Vol.30
2025 September
9



整形外科の 装具ガイド



連載



- 整形外科病棟のプリセプター必見
新人ナースとのかかわりかた **最終回**

第12回 連載のまとめ

連載を通してあらためて伝えたいこと

- 患者さんといっしょに取り組む！
整形外科の口コモ予防

第9回 口コモの予防と治療

③ 患者さんと栄養管理を始めよう！

- 整形ドクターが描く！
オベの裏側 **最終回**

特別編 医師の転勤事情

- 整形外科ナースが知っておきたい
高齢者の特徴これだけは！

第6回 肺・心臓・腎臓の機能に

変化をきたす高齢者

謹呈

MC メディカ出版

MC メディカ出版



大腿骨ステム周囲骨折

当院では人工関節センターを置き、人工膝関節全置換術 (total knee arthroplasty : TKA) や人工股関節全置換術 (total hip arthroplasty : THA) などを行っています。人工関節により歩行能力の向上や痛みの緩和などが得られ、患者さんのQOLを高めることができます。しかし残念ながら、歩行時の転倒やベッドからの転落により、人工関節のインプラント周囲に骨折が起きることがあります。本稿では大腿骨ステム周囲骨折について述べます。



図1・THA後の大腿骨ステム周囲骨折

病態

大腿骨ステム周囲骨折(図1)はTHA後または大腿骨人工骨頭置換術後の患者さんで転倒などを契機として外力が加わることで発生します。下肢筋力の低下のために転倒が起きやすく、骨が脆弱化した高齢者で見受けられることが多い疾患です。

症状

股関節から大腿部の疼痛、運動障害、腫脹、熱感などがみられます。

検査

問診や診察では、疼痛の部位、運動障害などの有無、関節可動域などについて調べます。

X線やCT画像にてインプラント周囲の骨折線の有無を確認します。

また、採血での骨代謝マーカーや骨密度検査により骨形成薬の使用やビタミンDの投薬を検討します。

治療

Vancouver分類やBaba分類に沿って、骨折が起きた部位やインプラントのゆるみの程度によって治療が決定されます。超高齢など年齢によっては手術や麻酔のリスクを加味し、あえて保存的治療を選択することもあります。

外科的治療：骨接合術と再置換術

骨接合術(図2)ではプレートやワイヤーを用いて固定します。再置換術に比べ、髓腔にインプラントがあるために強固な固定がしにくくなります。

再置換術ではロングステムのインプラントの入れ替えを行います。より固定性を向上させるため、ワ



図2・骨折部プレート固定後

ワイヤーによる固定が併用されることもあります。

保存的治療(図3)

股関節外転装具により局所の安静を保ち、骨形成

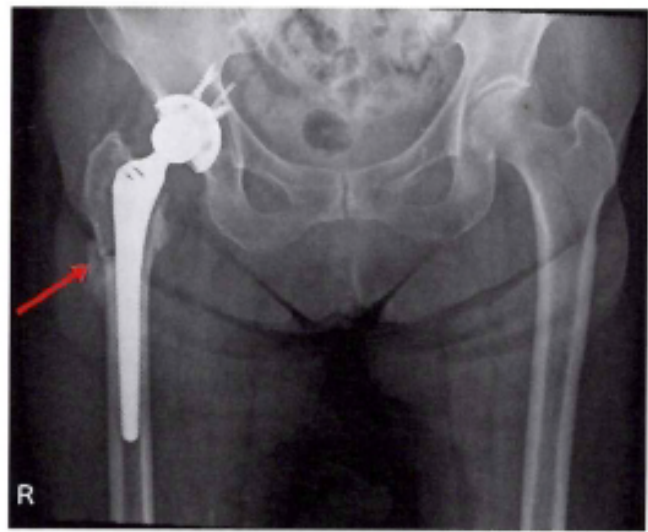


図3・保存的治療となった大腿骨ステム周囲骨折

薬(テリパラチド製剤やアバロパラチド製剤)、ビタミンD製剤などを使用します。

3～8週間の荷重制限を行います。完全免荷から部分荷重と段階的に荷重をかけていきます。

看護のポイント💡

①外科的治療の場合

早期離床のため理学療法士や作業療法士と協働し、荷重制限を守りながら車椅子への移乗介助や歩行器歩行の見守りをし、関節拘縮の予防や筋力強化を行うことで患者さんの日常生活動作(ADL)を向上できるように援助します。なかでも股関節、膝関節の関節可動域訓練は術後早期から開始することが重要です。弾性ストッキングの着用や下肢の挙上、足趾・足関節の運動を促し、深部静脈血栓症の予防に努めます。

疼痛に対しては、鎮痛薬の適正使用や総腓骨神経麻痺、血行障害に注意しながらクッションを用いて安楽な肢位の保持を行います。疼痛、腫脹、熱感にはアイシングを行います。

体動困難にともなう安静や手術、麻酔などの影響により腸蠕動運動が低下するため、しばしば便秘を引き起こすことがあります。飲水の励行や可能なかぎりトイレでの排泄を促し、下剤の使用を検討するなどの排便コントロールが必要となります。また、高齢の患者さんが多いことから脱水症状や経口摂取量にも留意します。

② 保存的治療の場合

股関節外転装具を使用する際は、装着方法の指導やトイレなどでの動作の工夫が必要となります。必要な期間は正しく装着できるよう説明します。

骨粗鬆症^{こつそしょうせい}に対しては、院内の骨粗鬆症リエゾンチームがかかわり、生活指導を行います。なかでも、骨形成薬の使用において自己注射の継続ができることは骨癒合の促進、再骨折の予防につながります。高齢の患者さんが多いため自己注射の確立に至るまでは根気強く練習を行い、どうしても本人が習得できないときは家族や訪問看護師などに協力を依頼します。入院中に病棟で行った生活指導が退院後も生かされるように外来との連携を図ります。

再骨折の予防として重要なのは、転倒予防です。必要に応じて歩行補助具の利用や介護保険サービスを用いた安全な生活環境の整備、筋力強化のためのリハビリなどを継続できるようにします。

引用・参考文献

- 1) 馬場智規. 大腿骨ステム周囲骨折に対する治療戦略. 臨床雑誌整形外科. 73 (12), 2022, 1273-81.



医療法人康仁会 西の京病院

整形外科病棟

大友真由美

おおとも・まゆみ

病院の基本理念である“安心”と“信頼”をモットーに、日々がんばっています。



同

整形外科病棟 師長

原田智恵

はらだ・ちえ

“安心”と“信頼”をキーワードに、患者さんを“一生涯”見守る医療・介護環境づくりの実践という基本理念のもとに、患者さんを生活者にとらえ、病のその先を考えた看護が提供できるよう日々取り組んでいます。